

## 大学における麻しん(はしか)など「かからない、うつさない」ために

2007年春、関東を中心に大学生の麻しんが流行したことは記憶に新しいところです。麻しんにかかったことがない、幼児期に予防接種を受けたことがない、1回受けたが大学入学時には抵抗力がなくなったことなどが流行の原因です。

麻しんは感染力が強く、感染後約10~12日間の潜伏期を経て、熱・せき・鼻水などの症状が出はじめます。数日後、顔などから発しんが出はじめ、高熱となり発しんは全身に広がります。38~39℃台の熱は1週間から10日程度続くことがあります。肺炎や脳炎を引き起こすこともあり、1000人に1人程度の割合で命を落とすことがあります。さらに、10年ほどしてから重い脳炎が10万人に1人の割合で発生することが知られています。

感染予防として、母子手帳を見て麻しんに「かかったことがなく、かつ予防接種の回数が0回又は1回」の人には、麻しんの予防接種を速やかに受けることを勧奨します。すでに麻しん抗体を有している方は、予防接種の必要はありません。この抗体の

有無は、医療機関で血液検査を受けることで確認できます。

症状(発熱・発しんなど)がある人は、登校や出勤をせずに速やかに医療機関を受診して下さい。麻しんと診断された場合は、所属している学部や大学院の学務係に届け出るとともに、登校や出勤については医師の指示に従って下さい。

新潟大学では、麻しん以外にも風しん・水痘(みずぼうそう)・流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)について「かかったことがなく予防接種を受けていない人」については、予防接種を受けることを推奨しています。血液抗体検査の優先などを含めて、医療機関と相談してください。

2008年度から5年間、新たに中学1年生と高校3年生が麻しんの定期予防接種の対象者になりました。在学生・教職員の皆さんも是非、予防措置を積極的に受け、「かからない、うつさない」ようにお願い致します。

■麻しん・風しんの定期予防接種のスケジュール(2008年4月1日施行)



▼接種 ■標準的な接種年齢 ■接種が定められている年齢

※原則として、MRワクチンを接種。なお、同じ「期」内で麻しんワクチン又は風しんワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者は単抗原ワクチンを接種。

新潟大学ホームページ●在校生の皆さんのページ

[http://www.niigata-u.ac.jp/gakugai/ci/245\\_2.html](http://www.niigata-u.ac.jp/gakugai/ci/245_2.html)

新潟大学保健管理センターホームページ

<http://www2.cc.niigata-u.ac.jp/~hoken/HAC-niigata.html>



西区DEアートのページを担当させて頂きました。初めての広報づくりはわからないことだらけでしたが、勉強になりました! 次はインタビューに行ってみよう。(田村)



新大広報の作成にあたって貴重な体験を得ることができました。この冊子が皆さんの目にどう映るのか楽しみです。(吉原)



創刊号の作成にあまり協力出来なくて、迷惑をかけてしまいました。次刊からはもっと積極的に! 新大広報をまた宜しくお願いします。(馬場)



五十嵐のB棟は明るくなりました。徐々にいろんな人に出会えて、あんなに、新大いいなあと思いました。そんな明るい新大広報。いかがだったでしょうか?(境野)

今回は取材に行くことができず無念…。次号はその分、ガンガン攻めていきます!(鏡)

こんにちは。平成childrenです!!新大広報を手にとっていただきありがとうございます。取材はいろんな人と出会って本当に勉強になりました。次はあなたのもとへ♪(百瀬)



企画

取材

全部やったよ

自分たちで集めた写真やコメントが冊子という形になっていくのは楽しかったです。やりがいのある仕事なので次の号も頑張りたいです。(小川)

今までの新大広報と比べ、相当にポップな表紙になりましたが、僕の仕業です。「イラスト担当」枠を獲得したので、これからもっと精進します。(清野)